



## I 全日制高校について

	A.外国人生徒	B.中国・サハリン帰国生徒	C.海外帰国生徒
1.2022年度中について、当該項目の生徒の在籍の有無 ※有・無・把握せずから1つ選択	有	有	有
2-1.2023年度の一般入試において、当該項目の生徒の受けられる入試特別措置の有無 ※○△×から1つ選択 △(要項に明記されていないが実質受けられる、等)の場合は「2-1の備考」に明記	○	○	○
2-1の名称	特別配慮	特別配慮	特別配慮
2-1の備考 2-1が△の場合は明記 国籍要件に条件がある場合は明記			
2-2.滞日年数制限	在日3年以内	帰国後6年以内	帰国後2年以内
2-3.措置の内容	時間延長 漢字にルビ 国・社を作文・面接で代替	時間延長 漢字にルビ 国・社を作文・面接で代替	時間延長 漢字にルビ 国・社を作文・面接で代替
2-4.2022年度の入試において、当該の措置で、日本語指導が必要な生徒が受験(受験)しているか ※有・無・把握せずから1つ選択	無	無	無
3-1.2023年度の入試において、当該項目の生徒を対象とした特別入学枠の有無 ※○△×から1つ選択 △(要項に明記されていないが実質対象となる、等)の場合は「3-1の備考」に明記	×	×	×
3-1の名称			
3-1の備考 3-1が△の場合は明記 国籍要件に条件がある場合は明記			
3-2.滞日年数制限			
3-3.入学枠のある学校数/全学校数			
3-4.学校名			
3-5.定員 ※該当する方のみ記入	①定員内(枠内)		
	②定員外(枠外)		
3-6.特別枠の定員数は明確となっており、かつその数まで合格を認めているか (定員数内で不合格を出さない内規等があるか) ※○×から1つ選択			
3-7.試験内容			
3-8.2022年度の入試において、当該の枠で、日本語指導が必要な生徒が受験(受験)しているか ※有・無・把握せずから1つ選択			
その他補足事項 ※措置や枠がある地域については、2022年度の入試別の受験者数・合格者数、その他事項などを記入			

## II 定時制高校について

	D.外国人生徒	E.中国・サハリン帰国生徒	F.海外帰国生徒
1.2022年度中について、当該項目の生徒の在籍の有無 ※有・無・把握せずから1つ選択	有	有	有
2-1.2023年度の一般入試において、当該項目の生徒の受けられる入試特別措置の有無 ※○△×から1つ選択 △(要項に明記されていないが実質受けられる、等)の場合は「2-1の備考」に明記	○	○	○
2-1の名称	特別配慮	特別配慮	特別配慮
2-1の備考 2-1が△の場合は明記 国籍要件に条件がある場合は明記			
2-2.滞日年数制限	在日3年以内	帰国後6年以内	帰国後2年以内
2-3.措置の内容	時間延長 漢字にルビ 国・社を作文・面接で代替	時間延長 漢字にルビ 国・社を作文・面接で代替	時間延長 漢字にルビ 国・社を作文・面接で代替
2-4.2022年度の入試において、当該の措置で、日本語指導が必要な生徒が受検(受験)しているか ※有・無・把握せずから1つ選択	無	無	無
3-1.2023年度の入試において、当該項目の生徒を対象とした特別入学籍の有無 ※○△×から1つ選択 △(要項に明記されていないが実質対象となる、等)の場合は「3-1の備考」に明記	×	×	×
3-1の名称			
3-1の備考 3-1が△の場合は明記 国籍要件に条件がある場合は明記			
3-2.滞日年数制限			
3-3.入学籍のある学校数/全学校数			
3-4.学校名			
3-5.定員 ※該当する方のみ記入	①定員内(枠内)		
	②定員外(枠外)		
3-6.特別枠の定員数は明確となっており、かつその数まで合格を認めているか (定員数内で不合格を出さない内規等があるか) ※○×から1つ選択			
3-7.試験内容			
3-8.2022年度の入試において、当該の枠で、日本語指導が必要な生徒が受検(受験)しているか ※有・無・把握せずから1つ選択			
その他補足事項 ※措置や枠がある地域については、2022年度の入試別の受験者数・合格者数、その他事項などを記入			

Ⅲ 高校入学後の状況

<p>1.日本語指導が必要な生徒に対して、入学後の日本語や教科の支援(補習等)にかかわる当該自治体の施策の有無 ※有・無から1つ選択</p>	有	
<p>2.有の場合、その施策の具体的な内容 ※該当する項目にチェック</p>	<input type="checkbox"/>	<p>A.教育課程に位置づけられた日本語授業(学校設定科目や個別対応授業など単位として認定されるもの)の実施</p>
	<input type="checkbox"/>	<p>B.教科学習において個別対応や習熟度別の授業を実施</p>
	<input type="checkbox"/>	<p>C.母語(継承語)保持のための授業の実施</p>
	<input type="checkbox"/>	<p>D.担当教員の加配</p>
	<input checked="" type="checkbox"/>	<p>E.日本語の授業などの講師や支援者の雇用</p>
	<input type="checkbox"/>	<p>F.母語(継承語)の支援のための講師や支援者の雇用</p>
	<input type="checkbox"/>	<p>G.その他外部支援者(コーディネーターなど)の雇用</p>
	<input type="checkbox"/>	<p>H.日本語指導が必要な生徒を対象としたキャリア教育(出口支援)</p>
	<p>その他の施策</p>	
<p>上記に該当する実施校の校数等</p>		
<p>補足事項</p>		
<p>3.自治体の施策ではないが、各学校で個別に実施していることがあれば記入</p>		
<p>4.2022年度の入試において、海外で中学相当(学校教育における9年の課程)を修了し、来日後直接高校受検(受験)した者の有無 ※有・無・把握せずから1つ選択、有りの場合はその人数も記入</p>	無	
<p>5.2021年度中に、直接来日後による編入学者の有無 ※有・無・把握せずから1つ選択、有りの場合は、その人数も記入</p>	有	1名

IV日本国内にある外国学校からの入学について		
	↓記入欄	備考
1-1.各種学校の認可を得た外国学校の中等部の卒業生について、高校受験(受検)者資格を認めているか否か ただし、中卒認定試験の合格を以って認めている場合は除く。 ※認めているは○印、認めていないは×印のいずれかで記入し、認めていない場合はその理由を備考に記入。検討中あるいは未決定の場合は△を記入し、備考に明記	○	
1-2. 1-1で認めている場合 ※①～④からいずれかを選択 ①外国学校中等部の卒業生には、そのまま他の生徒と同様に高校入学選抜の受験(受検)を認めている(外国学校の指定その他の条件を付している場合はその条件を記載) ②学校教育法施行規則第95条第5項に定める「中学校を卒業したものと同等以上の学力」があるかどうかの確認を、中卒認定試験・外国人特別入試等とは別途、高校入試に先立って行っている。 ③上記②を実施しておらず、外国人特別入試等を実施し、この合格をもって学校教育法施行規則第95条第5項に定める「中学校を卒業したものと同等以上の学力」があるかどうかの確認としている。 ④その他(方法を備考欄に記入)	①	
2-1.各種学校ではないが、本国政府の認可を得た外国学校の中等部の卒業生について、高校受験(受検)者資格を認めているか否か ただし、中卒認定試験の合格を以って認めている場合は除く。 ※認めているは○印、認めていないは×印のいずれかで記入し、認めていない場合はその理由を備考に記入。検討中あるいは未決定の場合は△を記入し、備考に明記	○	
2-2. 2-1で認めている場合 ※①～④からいずれかを選択 ①外国学校中等部の卒業生には、そのまま他の生徒と同様に高校入学選抜の受験(受検)を認めている(外国学校の指定その他の条件を付している場合はその条件を記載) ②学校教育法施行規則第95条第5項に定める「中学校を卒業したものと同等以上の学力」があるかどうかの確認を、中卒認定試験・外国人特別入試等とは別途、高校入試に先立って行っている。 ③上記②を実施しておらず、外国人特別入試等を実施し、この合格をもって学校教育法施行規則第95条第5項に定める「中学校を卒業したものと同等以上の学力」があるかどうかの確認としている。 ④その他(方法を備考欄に記入)	①	
3.上記のⅠⅡ特別措置と入学枠での滞日年数制限について、日本国内にある外国学校の在籍期間は、日本での在学期間を含むか否か ※日本での滞日年数に含むは「含む」、滞日年数に含むは「含めない」のいずれかで記入	含めない	
4.外国学校の中等部の卒業生について、2022年度入試において受験(受検)希望があったか ※あった場合「有」を記入、備考にその人数を記入。なかった場合は「無」を記入。把握していない場合は「把握せず」	無	

## V 調査した人からのコメントや関係者の皆さんへお知らせ

※各地域を担当されている皆さんだから知っている地域情報を、皆さんの視点からご記入いただきたいです。

「他地域から皆さんが担当する地域に引越し予定をしている中2の外国人生徒とその保護者に伝えたい情報」という想定で、いずれも公開されている情報について、ご無理のない範囲で、ご記入ください。

<p>1.日本語指導が必要な生徒の状況について、支援者の立場から、高校受験(受験)や高校進学に困難なケースや高校入試及び入学後の支援に関して課題と感じていること 高校入試や高校入学後の支援に関して、教育委員会や高校に期待すること</p>	<p>・長野県の高校入試制度においては、昭和62(1987)年の「中国引き上げ子女への特別配慮」の導入から現行の「海外帰国子女等への特別配慮、特別措置」まで30年以上の歴史があります。来日する子どもたちの背景や事情も多様化していますので、現行の制度を見直し、より個々の生徒の現状・ニーズに応じた体制づくりを求めます。 ・日本語指導が行われている間の特別の教育課程の充実、継続した教育を受ける権利の保障を願います。 ・多様な背景をもつ生徒に対応するキャリア教育の充実をお願いいたします。</p>
<p>2.日本語指導が必要な生徒を受け入れている私立高校の情報や課題など</p>	<p>・通信制高校の先生より、外国人生徒と関わる時間が限られており、日本語指導や日本語を使う機会を作ることが難しいと聞きました。全日制の公立高校においてより個別の配慮した受け入れや日本語指導が受けられる体制づくりを願います。 ・私立高校においては志願者生徒の個別の事情に応じた対応となるようです。公立高校に比べて費用がかかるので(特に入学時納入金が多額)、学べる高校が見つかっても家庭の経済状況で諦めるケースもあります。</p>
<p>3 外国人生徒の高校入試などについて、近くで相談できる場所 ※担当地域内の団体名やURLなどを記入ください</p>	<p>★公益財団法人 長野県国際化協会 http://www.anpie.or.jp TEL: 026-235-7186 FAX:026-235-4738 ★長野県多文化共生相談センター https://www.naganoken-tabunka-center.jp 〒381-0000 長野県長野市南長野1485-1 もんぜんぶら座3F TEL 026-219-3068 / 080-4454-1899 第1水曜日・第3水曜日を除く平日(月曜日～金曜日)、第1土曜日・第3土曜日 10:00～18:00 Zoomによるオンライン相談可。</p>
<p>4.多言語による関連情報 ※担当地域の自治体やNPOなどで公開されているものがあれば、URLなどを記入ください。</p>	<p>日本語を母語としない子と親のための進学ガイダンス 問い合わせ: TEL: 026-235-7186 FAX:026-235-4738 多言語冊子あり(中国語、タガログ語、ポルトガル語、ベトナム語、タイ語、英語、日本語) 松本市子ども日本語教育センター 問い合わせ: 長野県松本市渚1-5-34 田川小学校内 電話: 0263(25)7143 mail: m.kodomonihongo@gmail.com 資料名: 高校進学ガイド動画(中国語、ポルトガル語、タガログ語、やさしい日本語) 高校進学ガイド多言語冊子(中国語、ポルトガル語、タガログ語、日本語、スペイン語、英語)</p>
<p>5.その他 ※「こんな情報もあるよ!」ということ、メッセージや助言などがあれば、調査した人からの目線でぜひご記入ください。なお、そのままホームページには掲載致しません。</p>	